

第3学年2組 国語科学習指導案

単元名 「好きな登場人物を詳しく紹介しよう」

教材名 「モチモチの木」(光村図書 3年下)

指導者 高橋 憲子

対象：3年2組 31名 日時：令和7年11月15日(土) 9時15分～10時 場所：第3多目的教室

I 教材について

本作品は、小見出しが付いた5つの場面に分かれており、展開も明快であるため、内容が捉えやすい作品である。主人公の豆太は5才で、昼間は元気いっぱいだが夜中は一人でせっちんに行けないくらい臆病な人物として描かれている。自分よりも年下の主人公であるため、児童はこれまでの自分の生活経験と重ねて共感したり同化したりしながら読み進めていくと思われる。また、本作品は、語り手の見方や考え方を通して登場人物の行動や気持ちが語られており、豆太の人物像や変容という点において、一人ひとりの考え方が分かれることが予想される。友達との交流を通して自分の考えを広げ、それぞれが主体的に読み深めていけるようにしたい。

II 子どもについて

本学級の児童は、元気で意欲的に学習に取り組む児童が多い。授業中はよく話す児童が多いため、気付いたことを自由に発言する姿が多く見られる。しかし、いざ発表となると一部の児童だけが活躍する傾向にあり、全体の場では分かっているも挙手や発言をしない児童もいる。物語文の学習では、物語全体を通して読み、場面の移り変わりや中心人物の変容について考えることを続けてきたため、叙述から登場人物の気持ちを考えることができるようになってきているが、自分の考えを一つもつと満足してしまい、それ以上考えを広げないことが多い。友達の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点を見いだしながら、交流を通して自分の考えを広げられるようにしたい。

III 校内研究との関わりと目指す子どもの姿

四校園の研究テーマ 「自ら考え、自律的に行動する子の育成」

附属小研究主題 「多様性を生かした学びの環境づくり～共に学びの主体者に～」

国語部研究主題 「言葉の力を自覚し、自らの学びを追求する」

国語部研究主題である「言葉の力」とは、自分の思いや考えを他者に伝える力(伝達)・思いや考えを捉えたり深めたりする力(認識)・自分の思いや考えを新たに生み出す力(創造)のことを指す。児童が授業を通してこの3つの力を身に付けたと実感し、その後の学習や日常生活において活用していくことができることを「自らの学びを追求する」とし、研究を行ってきた。本時では、叙述を基に考えることはもちろんのこと、一つの叙述に留まらず、複数の場面の叙述を結び付けながら豆太の変容を捉え、登場人物の多面性に気付いていけるようにしたい。また、叙述のみならず、挿絵や自分の経験などとも結び付け、中心人物である「豆太」の変容を話し合うことを通して、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付き、様々な考えに触れながら自分の考えを広げられるようにしたい。

附属小研究主題との関わりとしては、多様性を生かし、自分の考えに自信をもてない児童や気が合う友達でないと考えや思いを話すことが難しい児童が、その他の児童と同じように話し合いができるように、一人で自分の考えをもつだけでなく、話す相手を自分で選び、少人数で話し合いながら自分の考えを固めていくようにしたい。また、一人ひとりの考えをもとに、全員で互いの読みを理解し合う環境づくりをすることで、自分たちで学び合うことや自分で学んでいく基礎を作り、四校園の研究テーマでもある「自律的」な学習へと繋げたい。

IV 単元について

(1) 単元の目標

○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
【思考力、判断力、表現力等C(1)エ】

○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

【思考力、判断力、表現力等C(1)オ】

- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
【思考力、判断力、表現力等 C (1) カ】
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。
【知識及び技能 (1) オ】
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 (1)オ)	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 (C (1) エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (C (1) オ) ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 (C (1) カ)	① 積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

(3) 単元の指導計画及び評価の計画 (全13時間)

次	時間	○主な学習活動	◆教師の支援	・主な評価規準
一	1	○斎藤隆介作品の中の登場人物について「推しカード」を作って紹介し合う活動を単元のゴールにすることを教える。	◆教師の提示するカードを基に、学習の見通しがもてるようにする。 ◆斎藤隆介作品の並行読書が行われるように、本の紹介をする。	・単元のゴールが分かり、初発の感想をもって、友達と伝え合おうとしている。 【主】（記述・発言・観察）
		【単元の学習課題】 「推しカード」を作って、登場人物の魅力を伝え合おう。		
		○教科書 P121 を見て、物語の内容を想像する。 ○教材文を読み、初発の感想を書き、交流する。	◆「モチモチの木」の登場人物について考えていくことで、自分の「推しカード」作りに生かすことを確認する。 ◆「豆太」がどんな人物であるか、「モチモチの木」がどんな木なのかを想像させ、作品への興味を引き出す。 ◆感想の中に、疑問に思ったことを書くように声を掛ける。	
	2	○物語の設定や構成を確認する。	◆時、場所、登場人物、中心人物、出来事などについて、自力または友達と協力して書かせ、全体で確認する。	・教材文全体から物語の設定を読み取ろうとしている。 【知】（記述・発言）

	3	○初発の感想と物語の設定で分かったことを照らし合わせながら、登場人物に関して、疑問に思うことやみんなで話し合う必要がある疑問を出し合い、「問い」を作る。	◆初発の感想から、「豆太」がどういう人物なのかに関する考えの違いを「問い」にするほか、疑問を出し合い、「問い」を作るように支援する。	・互いに疑問を出し合い、本単元で考えたいことを話し合おうとしている。 【主】（観察・発言）
	4	○学習計画を立て、単元全体の学習の見通しをもつ。	◆学習計画を立てることで、学習の見通しがもてるようにする。	・進んで学習計画を立て、学習の見通しをもとうとしている。 【主】（観察・発言）
二	5	○豆太の人物像をつかむ。	◆中心人物である「豆太」についてどんな人物であるか、叙述から読み取り、具体的に想像できるようにする。 ◆語り手とじさまから見た豆太について確認する。	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 【知】（発言・記述） ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 【思】（発言・記述） ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 【思】（発言・記述）
	6	○モチモチの木に対する豆太の様子や思いを捉える。	◆モチモチの木に対する豆太の様子を昼間と夜で対比して考えるように促す。	
	7	○じさまに対する豆太の様子や思いを捉え、豆太の変容について考える。	◆豆太の行動や様子がそれまでの場面と比べてどのように変わったのか確認する。	
	8	○物語のはじめと終わりで、豆太は変わったかを考える。	◆豆太が変わったか、変わっていないか、自分の考えをもち、理由とともにノートに書くように促す。	
	9 本時		◆複数の叙述、じさまや語り手の視点など、様々な角度から豆太の変容を捉えて話し合う場を設定する。	
三	1 0	○今まで学習してきたことを生かして、豆太の「推しカード」を書く。 ○みんなで読み合い、よいところやアドバイスしたいことを伝え合う。	◆学習してきた豆太の人物像や変容が表れるように書くことを確認する。 ◆次の活動に繋げるために、より登場人物の魅力が伝わるようにするための意見交換を行う。	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 【思】（記述・発言） ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 【思】（記述・発言）
	1 1 1 2	○自分が選んだ斎藤隆介作品の中の登場人物の「推しカード」を作る。	◆斎藤隆介作品を並行読書してきた中から、自分が一番魅力を感じた人物について、その人物像や魅力が伝わるように書くことを確認する。	
	1 3	○みんなで読み合い、感想を伝え合う。 ○学習の振り返りをする。	◆登場人物の人物像や魅力が伝わるように書かれているかを観点にして読み合うことを伝える。	

(4) 本時の目標 (9/13)

物語のはじめと終わりで「豆太」が変わったかを話し合う活動を通して、豆太の気持ちの変化や性格を叙述や場面の移り変わりと結び付けて考えたり、友達の考えを聞いて考えを広げたりすることができる。

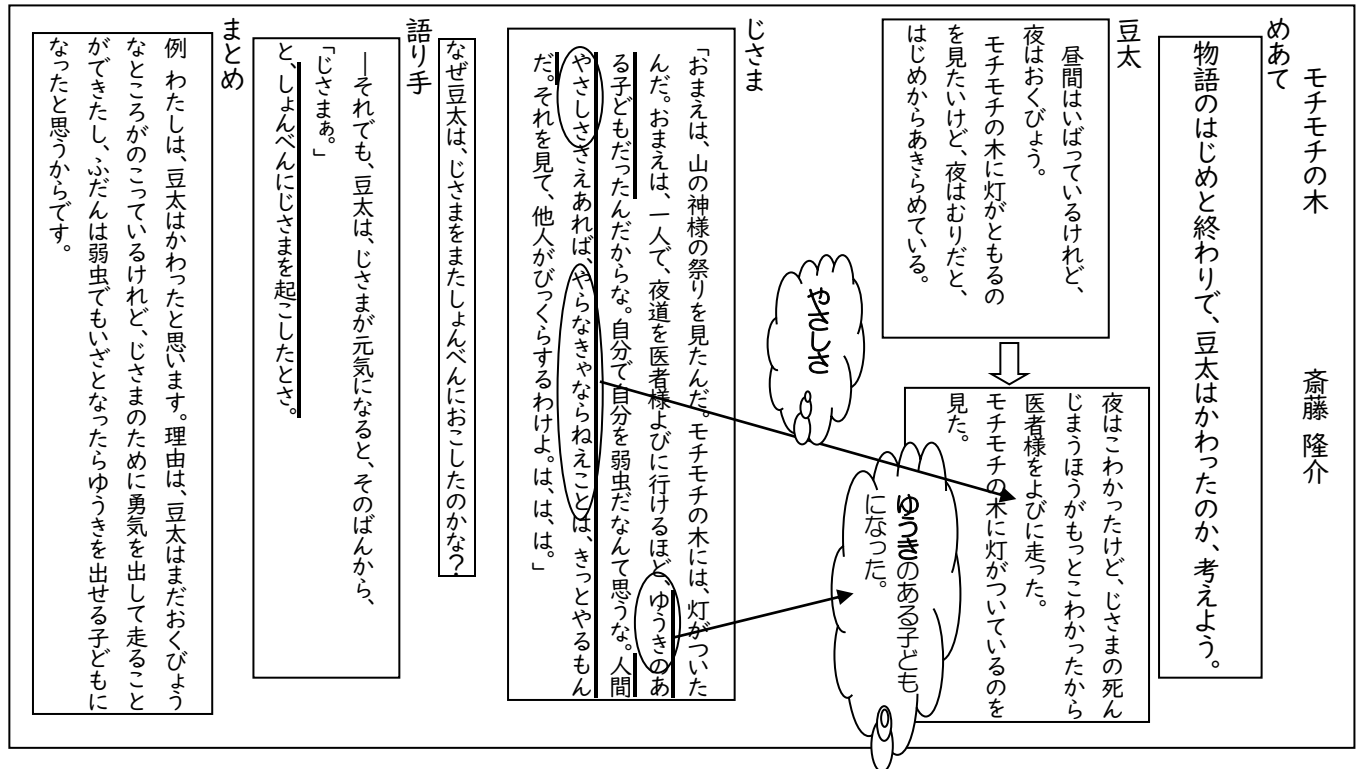
【思考・判断・表現 C(1)エ, オ】

(5) 本時の学習

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の発言・思考	・教師の働きかけ ◎評価 校内研究との関わり
1 前時からの課題を確認する。 物語のはじめと終わりで、豆太はかわったのか考えよう。 2 前時までの学習を振り返る。 ○豆太は変わったか、変わっていないか、変わった部分もあるけど変わらない部分もあるなど、今の時点での自分の考えとそう思う理由を本文から考え、ノートに書いたところまでやりました。 ・じさまのために夜中に医者様をよびに行けたし、ゆうきのある子どもしか見ることができないモチモチの木に灯がついたのを見ることができたから、かわったと思う。 ・じさまをしょんべんに起こしたのなら、はじめの豆太とかわってないと思う。 3 話す相手を選んで、少人数で話し合う。 ○同じ考えの仲間と話し合って、理由をよりはっきりさせたり、理由を増やしたりしましょう。また、自分と違う考えの人同士で理由を聞き合ってもいいです。 ・じさまが「お前はゆうきのある子どもだったんだ」と言っているし、じっさいにモチモチの木に灯がついているところを見ることができたから、ゆうきのある子どもになったと思う。 ・医者様をよびに行けたところはかわったと思うけれどまたしょんべんに起こしたからおくびょうなままだと思う。 4 全体で考えを交流し、自分の考えを深める。 ○変わったと思うところから確認しましょう。 ・豆太はじさまのために夜道を走って医者様をよびに行けたし、ゆうきのある子どもしか見ることができないモチモチの木に灯がついているところを見ることができたんだから、かわったと思う。 ・じさまが「やさしささえあれば、やだなきゃならねえことは、きっとやるもんだ」と言っているから、ただのおくびょうな子どもじゃなくて、やさしくてゆうきが出せる子どもになったと思う。	・前時までに、叙述を基に自分の考えをもたせ、そう考える理由とともにノートに書いておく。また、変わったか、変わっていないかなどの自分の考えが全員に分かるように、ネームプレートを貼っておく。 ・この後の話合いで、自分とは違う考えにも着目させるために、「変わったか」、「変わっていないか」という二項対立のような聞き方をするが、「変わったけれど、戻った」「分からない」などの意見も認め、全体にこの後の話合いで意見が変わってもいいことを確認する。 子どもが一人または数人で自分の考えを固めていく活動 ・前時の活動で、一人で考えることが難しい児童や自信がもてない児童は友達と話し合いながら自分の考えを固めてよいこととする。 ・友達と話し合うことで、一つの理由だけに終わらず、様々な視点で考えられるようにする。 子どもが一人または数人で自分の考えを固めていく活動 ・気の合う友達でないと思うように話せない児童もいるため、自信をもって課題に向かうことができるように、話す相手は自分で選ぶことを伝える。 全員で互いの読みを理解し合う環境づくり ・文や挿絵、自分の経験と結び付けて、考えを交流し合う中で、新たな視点を得たり、登場人物の多面性に気付いたりできるように補助発問をするなどして支援する。 ・前時までの学習から豆太の行動や気持ちの変容を確認する。 ・豆太自身は自分をどう見ているのかを確認する。 ・じさまから見た豆太の変容を確認する。 ・じさまの会話文と豆太の行動や様子を関係付ける。

○変わらない（変わったけれどもどった）と思うところ はありましたか。 ・さい後の文でじさまをしょんべんに起こしたと書いて いるので、おくびょうにもどったと思う。 ・じさまがやさしささえあればいいって言ったから、豆 太は自分のことをおくびょうのままでもいいと思っ たのかな。 ・豆太は、じさまのためにゆうきを出せる子どもになっ たから、自分のためのゆうきはまだ出せないのかも。 ・語り手が豆太はおくびょうだと思っているだけかもしれ ない。5才だったら夜はこわいと思う。 5 自分の考えをまとめる。 例1：わたしは、豆太はかわったと思います。理 由は、豆太はまだおくびょうなところがのこっ ているけれど、じさまのためにゆうきを出して走 ることができたし、ふだんは弱虫でもいざとなっ たらゆうきを出せる子どもになったと思うからで す。 例2：わたしは、豆太はかわったと思います。理由 は、じさまを助けるためにがんばって走ったやさし い気持ちになったと思うからです。じさま をまたしょんべんに起こしたけれど、5才だったら 夜に一人でトイレに行けないのはふつうだと思う からです。 例3：ぼくは、豆太はかわったところもあるし、 かわってないところもあると思います。理由は、 豆太はモチモチの木に灯がついているところを見 たから、自分でゆうきのある子どもになったと思 っていると思うけど、やっぱり夜はこわいから夜 はおくびょうなままだと思うからです。 例4：ぼくは、豆太はちょっとだけかわったと思 います。理由は、医者様をよびに行くときもなき なき走っていたし、じさまが元気になったらしょ んべんに起こしたし、昼間はいいけど、夜がだめ なところは今もかわっていないからです。だけど、 じさまのためにゆうきを出せたから、これからも っとかわるかもしれないと思います。 6 本時の振り返りをして、次時の予告をする。 ・分かったことや考えたこと、感想など。 ・友達の意見でよかったこと。 ・これから（次の時間に）頑張りたいこと。	・変容が見られた豆太なのに、どうしてじさまをしょん べんに起こしたのか考えるように促す。 ・語り手から見た豆太の変容について確認する。 ◎豆太の気持ちの変化や性格を場面の移り変わり結び 付けて考えたり、友達の考えを聞いて考えを広げたり している。 (思・判・表／ノート・発言) ・話し合ったことを基に、自分の言葉でまとめることを 伝える。 ・次時は、学習してきた豆太の人物像や変容が表れるよ うに豆太の「推しカード」を書くことを確認する。
--	---

V 板書計画



参考文献

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編」平成 29 年 7 月 東洋館出版社
- ・全国国語授業研究会／筑波大学附属小学校国語研究部編『対話で深める国語授業』2019 東洋館出版社
- ・白石範孝『白石範孝集大成の授業「モチモチの木」全時間・全板書』2016 東洋館出版社
- ・茅野政徳・櫛谷孝徳編著『読みのスイッチでつなぐ 教材研究と授業作り 物語文編』2024 東洋館出版社
- ・弘前市国語教育研究会「研究の歩み 生きて働く国語の能力の育成」平成 28 年度，平成 29 年度